



安全で快適な職場づくりに努めることを誓った大会
＝鹿児島市のジェイドガーデンパレスで

平成14年度 安全大会

県が名瀬市里集落と知名瀬集落間に建設を進めている農免農道整備事業名瀬西部トンネルの安全祈願祭が11日、名瀬市の知名瀬側抗口で行われ、発注者の県や施工業者らが出席し、工事期間中の安全を祈願した。

神事では、平田隆義名瀬市長が鍬入れの儀、施工業者を代表して梅林建設(株)の佐藤辰生取締役副社長と山下鶴建設(株)の山下資起代表取締役社長が穿ち初めの儀を力強く行った後、佐藤副社長、山下社長、尾崎健一亀美建設業協会会長らが次々と玉串を捧げ、無事故でのトンネル完成を祈願した。橋口和徳農薬土木技監と平田市長の挨拶に引き続き、施工業者を代表して挨拶に立った佐藤副社長は「名瀬市にとって物流の大動脈となり、飛躍的發展に資する工事を請け負うことができたこと

とは感謝の極み。安全管理はもとより施工管理、環境対策に至るまで細心の注意を払い、無事故無災害で早期完成を目指したい」と抱負を語った。

今回建設される名瀬西部地区は、名瀬市でも有数の果樹地帯であり、これまで幅員が狭いうえに回り道となるなど農作業や作物輸送の大きな障害になっていた。同トンネルが完成することにより、物流の大動脈として農業経営の安定とともに地域住民の生活環境の向上が期待されている。

同トンネルは、延長970m、全幅員9・25mで工法はNATM。事業費は22億8000万円。施工は梅林建設・山下鶴建設特定JVが担当。貫通は15年6月頃で16年6月完成予定。その後、トンネル内の照明、防災施設工事を経て17年度内の供用開始を予定している。

名瀬西部トンネル安全祈願祭

物流の大動脈へ期待



無事故無災害を祈った安全祈願祭
＝名瀬市の知名瀬側抗口で

とは感謝の極み。安全管理はもとより施工管理、環境対策に至るまで細心の注意を払い、無事故無災害で早期完成を目指したい」と抱負を語った。

今回建設される名瀬西部地区は、名瀬市でも有数の果樹地帯であり、これまで幅員が狭いうえに回り道となるなど農作業や作物輸送の大きな障害になっていた。同トンネルが完成することにより、物流の大動脈として農業経営の安定とともに地域住民の生活環境の向上が期待されている。

同トンネルは、延長970m、全幅員9・25mで工法はNATM。事業費は22億8000万円。施工は梅林建設・山下鶴建設特定JVが担当。貫通は15年6月頃で16年6月完成予定。その後、トンネル内の照明、防災施設工事を経て17年度内の供用開始を予定している。

一致協力、労災防止を

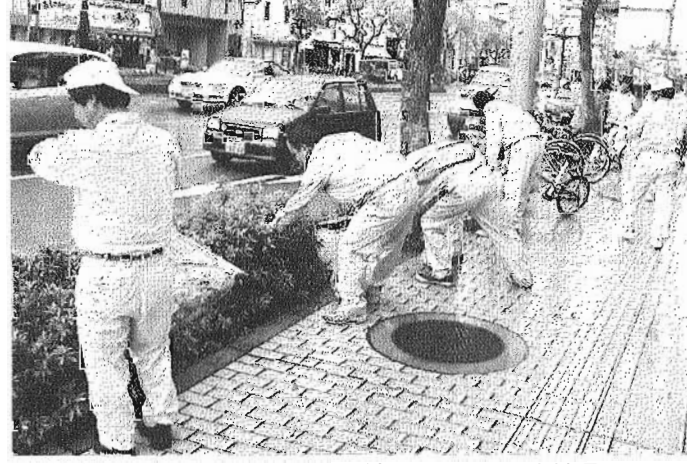
鮎川建設(鮎川利朗社長)と同社安全衛生協力会(会長・崎山昌昭野元土木(株)社長)共催の14年度安全大会は11日、鹿児島市のジェイドガーデンパレスで開かれ、関係者約1200人が参加して、労働災害防止や安全で快適な職場づくりに努めることを誓い合った。

神前に対して作業の無事安全を祈願した後、鮎川社長が「経営の合理化

鮎川建設(鮎川利朗社長)は11日、鹿児島市荒田の本社周辺で奉仕作業を実施し、社員約40人が参加して地域住民の日頃の協力に感謝の意を込めて空き缶やごみ拾いなどを行った。

同社は午前中、現場を全て休みにして安全衛生協力会共催で安全大会を実施。その後、初めての試みとして社員総出で奉仕作業を実施した。

作業は、同社周辺の騎射場電停交差点付近を中心に荒田八幡方面とダイエー方面、県庁方面、鹿児島大学方面の4カ所に分かれて実施。



道路沿いの植え込みのごみ拾いに精を出す社員
＝鹿児島市荒田で

社員総出でごみ拾い

鮎川建設(鮎川利朗社長)は11日、鹿児島市荒田の本社周辺で奉仕作業を実施し、社員約40人が参加して地域住民の日頃の協力に感謝の意を込めて空き缶やごみ拾いなどを行った。

同社は午前中、現場を全て休みにして安全衛生協力会共催で安全大会を実施。その後、初めての試みとして社員総出で奉仕作業を実施した。

作業は、同社周辺の騎射場電停交差点付近を中心に荒田八幡方面とダイエー方面、県庁方面、鹿児島大学方面の4カ所に分かれて実施。

ジュニアマイスター教室

14年度第1回目の「ジュニアマイスター教室」が10日、鹿児島市の中山小学校で開かれ、同小6年生児童148人が参加して、技能士の指導のもと、技術の素養を身につける体験活動を行った。

開会式では、最初に黒岩和宏校長が「日常の生活で体験することの少な

鮎川建設(鮎川利朗社長)は11日、鹿児島市荒田の本社周辺で奉仕作業を実施し、社員約40人が参加して地域住民の日頃の協力に感謝の意を込めて空き缶やごみ拾いなどを行った。

同社は午前中、現場を全て休みにして安全衛生協力会共催で安全大会を実施。その後、初めての試みとして社員総出で奉仕作業を実施した。

作業は、同社周辺の騎射場電停交差点付近を中心に荒田八幡方面とダイエー方面、県庁方面、鹿児島大学方面の4カ所に分かれて実施。

MICフェア2002

情報化対応システム好評

町の本社ビルで「MICフェア2002」を開き、会場となった1階フロアでは、情報化時代を先取った各種セミナーやシステム展示が行われ、大勢の来場者で賑わった。

同社の新社屋移転を機に、NECと協賛で企画されたフェアでは、建設CAIS/ECの基本的な準備として、同社が7月から発売開始する建設向けWeb版「工事履歴管理システム」や、NECの「電子承認システム」などの、セミナーやデモンストレーションを実施。また、自治体や医療機関向けの各種システムの体験展示ブースも設置され、フェアに参加していた各企業の最新システム構築に向けて、熱心に説明を受けていた。

今回、セミナーに参加していたヤマガチ(株)の中野浩一総務課長は、「多彩な工事履歴(公共・民間)の検索をはじめ、CORINSデーターの有効活用、更にEXCEL形式による経費申請書や技術資料等を自動作成できる工事履歴管理システムは、我が社のニーズに合致する画期的なシステム。ぜひ、導入したい」と話していた。



技能士の説明を受けながら課題に取り組む児童
＝鹿児島市の中山小学校で

さんは「今日の活動を楽しく、楽しくやる気をもって頑張ってください」と挨拶。続いて、福永好森県技能士会連合会長が「つくる楽しさ、技能の素養を身につける体験活動を通じて、立派な作品がでるよう一生懸命頑張ってください」と元気に挨拶した。後、早速それぞれの教室に分かれ製作に入った。同日は本立てや円形ミ